

(2) 歯科医療編

症状・疾病	対処法
義歯の不適合 破損・紛失	<p>義歯（入れ歯）には部分床義歯（部分入れ歯）と全部床義歯（総入れ歯）があります。部分床義歯を使用している場合、クラスプ（ばね）をかけてある歯が、折れたり、かぶせてあった冠が外れたり、揺らいでしまったり、抜け落ちてしまったりと言ったことで、不適合（合わなくなる）になります。また、部分床義歯・総義歯ともに、経時的に（時間がたつにつれて）顎堤（あご）と不適合になります。その他にも、口腔機能が低下したり、口腔乾燥などにより、義歯が不適合になります。義歯の不適合により義歯性潰瘍になったり、疼痛や咀嚼障害が生じて、放置されると低栄養や閉じこもりの原因になります。食事や会話、清掃するときなどにチェックする必要があります。</p> <p>義歯の破損は清掃時に起こることが多いようです。落下に備え、水を張った洗面器などを用いて滑らないように注意して清掃をして下さい。</p> <p>不適合が見られたり破損した時は、受診して適切な対応を受けて下さい。また、義歯の紛失も少なくありません。新たに作り直すこととなりますが、繰り返し紛失すると保険の適応が困難になる場合もあります。</p> <p>いずれの場合も放置されることがないようにして下さい。</p>
むし歯・歯周病	<p>口腔ケアが不十分だったり口腔機能が低下すると、むし歯や歯周病が多発・重症化します。残根状態（歯根だけ残った状態）の歯も同じことですが、見落とされることが多いので注意が必要です。</p> <p>原因は、細菌塊であるバイオフィルムとしてのプラーク（歯垢）です。プラークは、歯ブラシなどでこすり落とさない限りうがいなどでは除去することは不可能です。</p> <p>ブラッシングを適切にすることは、プラークを除去するばかりでなく摂食・嚥下機能を高める効果も確認されています。使用する清掃用具なども含め、歯科衛生士による適切なブラッシングの指導を受けましょう。</p>
口内炎	<p>口腔内の粘膜や歯肉に、水泡や、ビラン、潰瘍や偽膜などができるものですが、アフター性口内炎と呼ばれるものが最も多く、円形または楕円形の潰瘍で、中心部は白っぽく外側は赤くなっていて、多くの場合1～2週間で治ります。軽い場合は食べ物がしみたり、触れると痛い程度ですが、発熱したり重症になることもあります。高齢者の場合、かび（真菌）の一種であるカンジダ菌によるカンジダ性口内炎が見られることがあります。口腔内の衛生状態が不良であったり、全身状態や栄養状態が不良であったりすると発現します。また、義歯を使用している場合は、義歯性の潰瘍と区別する必要があります。口内炎は全身性の疾患の一症状の場合もありますので、受診して原因を確かめ、口腔ケアをしっかり行い、栄養をバランスよく十分に摂り、粘膜の抵抗を高めるためにはビタミン類を十分摂るようにすると良いでしょう。</p>
口腔乾燥症	<p>口腔内は湿潤しているのが正常な状態です。口腔内が乾燥してしまうと口腔の機能が低下します。喀痰不良、口腔粘膜の剥離、出血、細菌増殖などが重なり口腔内の環境が悪化します。これらの変化は咽頭にも波及します。気道感染をはじめいろいろな感染が起きやすくなります。重篤になると気道を閉塞する場合があります。</p> <p>この場合、口腔ケアが最大の予防手段です。口腔内の湿潤には刺激唾液が最も適しているで、歯肉や頬、舌、口唇などへの機能的ケアを口腔清掃と併用し、個々に応じた口腔ケアを行うことが重要です。唾液腺の萎縮や廃用の予防として、唾液腺マッサージや温熱・寒冷刺激を行うことも良いでしょう。また、室内の高温や乾燥、就寝時の姿勢による開口状態などにも注意する必要があります。個々に応じた口腔ケアに関しては歯科衛生士の指導を受けましょう。</p>
顎関節脱臼	<p>高齢者においては、顎関節を構成する下顎頭、関節窩、関節結節などの形態や周囲の組織が、若年者に比べて脱臼を引き起こしやすい状態に変化しています。過度の開口や外力あるいは薬の副作用等により、一側あるいは両側性で顎関節の脱臼が引き起こされます。前方への脱臼が多く、徒手整復で比較的簡単に整復することができます。</p> <p>ただし、脱臼していると気づかれないまま放置されることもまれではなく、整復が困難になるばかりか、激痛を伴ったまま、口腔乾燥、摂食・嚥下障害、構音障害などを引きこしたままになってしまうケースもあり、注意が必要です。</p>